



# VOICE

読者のページ

2025年2月号(53巻2号)へ寄せられた  
読者の皆様からのご意見・ご感想を紹介します。

## 特集

### 生理機能検査の内部精度管理 理想と現実 —できることから始めよう！

- 脳波検査の10/20法電極装着位置の確認にゴムを使う方法に感心しました。新人教育にも役立ちそうなので、やってみようと思います。 **やもり (山口県)**
- “生理機能検査における内部精度管理はなぜ難しいのか”は、現場が日々実感していることだと思います。対検体ではなく対人間は本当に難しく、読んでいてその通りだと共感しました。 **プー (東京都)**
- 生理機能検査部門での内部精度管理の普及ははかばかしくない現状ですが、ISOに項目が追加されたことを機に具体的な方法などが少しずつ明記されてきたと知り、参考になりました。 **さとしくん (兵庫県)**

## 基礎講座

### 糸球体腎炎の基礎知識—腎生検標本作製から 糸球体腎炎の病理組織像のポイントまで

- 以前の勤務先では、腎生検検体を切り分ける際に検査の優先順位が決まっておらず、採取量が少ない場合に困っていました。この記事で正しい順番を知ることができたので、役立てたいと思います。 **KN (大阪府)**
- 自施設では臨床検査技師が出向・検体処理し、腎生検を行います。標本作製に際し腎生検を学べる教材を望んでいたもので、大変勉強になりました。 **KT (東京都)**
- 糸球体腎炎について、病理も含めて知ることができて良かったです。 **じゅん (神奈川県)**
- 病理検査視点の記事でしたが、代表的な病変の基礎知識で、得るものがたくさんありました。 **HY (福岡県)**

## 技術講座

### 細胞診におけるギムザ標本作製の秘訣

- 標本作製の工程において、いくつかのポイントや注意点が、良質な標本作製技術の習得は簡単ではないことがよくわかりました。 **MK (千葉県)**
- 髄液の検体処理で、チャンバー内のゴミをエアブローで除去する方法は試してみたいです。 **MT (京都府)**
- 一般検査を担当していますが、穿刺液の細胞分類でメイギムザ染色を行っています。本記事はとても勉強になりました。 **さかな (北海道)**
- 各臓器の診断のポイントが画像付きで掲載されていて、とてもわかりやすかったです。 **SS (奈良県)**

## 臨床検査 Q&A

### 子宮内膜増殖症とG1の鑑別のポイントを 教えてください。

- 子宮内膜細胞診の判定は難しいです。この記事を読んで、子宮内膜増殖症とG1の鑑別のポイントがよくわかりました。 **みー太郎 (兵庫県)**
- 良性か悪性かの判定に背景を参考にできない場合もあるので、集塊や細胞の特徴をしっかりと覚えていきたいです。 **さんきち (山口県)**
- 子宮内膜増殖症とG1の鑑別は理解したつもりですが、特に出血がみられる時は好中球が混在し、間質細胞もわかりづらいです。不整な突起がみられる症例もあり、「悪性？」と迷うことがあります。 **やもり (山口県)**

ご意見・ご感想は巻末の「ホットラインカード」、またはWebアンケートにてお寄せ下さい。ご投稿をお待ちしています！

